

港区まちづくりマスタープラン改定 グループヒアリングの開催概要

分野	ヒアリング対象者 実施方法・実施日	主な意見（概要）
【方針1】 土地利用 ・活用	エリアマネジメント組織 ヒアリング形式にて実施 平成 28 年 7 月 4 日	○どこか1つのエリアが盛り上がれば、地域間競争によりまちづくりが活発化し、結果として港区全体の魅力アップにつながると思う。開発事業者単体では難しいが、各企業・住民の方を巻きこみながら進めていけるといい。 ○エリアマネジメントは、財源が課題となる。中心となって活動する民間事業者が存在する期間はいいが、それを永遠に続けていくことは難しい。将来的に地域が運営を担う仕組みが必要になる。また、難しいとは思いますが、エリアマネジメント活動の中心となっている民間事業者への財政的な支援なども考えてもらえるとありがたい。 ○地域にはもともと町内会や自治会のような組織があるが、それぞれ課題を持っている。一方で、開発事業等によってエリアマネジメント活動を行う企業などが新たに地域に生まれ、一企業の枠を超え、企業間で連携したり、地域を巻き込んで活動をしたりしようとしている。地域の課題をともに解決していくためにも、活動ごとに主体が誰なのかを整理しながら、エリアマネジメントの必要性について行政の計画に位置付けられていると良い。
	民間開発事業者 ヒアリング形式にて実施 平成 28 年 6 月 28 日	○東京は文化面やエンターテインメントが弱い。東京も港区も、何かキラコンテンツとなるものを重点的に育てる必要がある。 ○港区は、民間活力とともにまちが発展してきたエリアである。東京の顔をつくる自負が、開発事業に携わる各社にもある。質の高い開発事業を連鎖する仕組みが肝要。 ○民間開発は点的であり、それらをつなぐ交通や緑、エネルギーなどの線的・面的なネットワークの整備・誘導は行政が担うものではないか。うまく連携できるとよい。 ○国際的なビジネス環境と良好な居住環境をあわせもつ自治体は、ほかにはない。港区にしかないウリであり、もっとアピールすべき。 ○まちの成り立ちや歴史を知ること、もっとまちに興味や愛着を持つ人は増える。まちづくりを円滑に進めるためにはそういったことも大事。
【方針2】 住宅・生活 環境・地域 コ ミ ュ ニ ティ・防犯	<子育て> 子育て中の母親（子育て広場あい・ぽーと） ヒアリング形式にて実施 平成 28 年 7 月 12 日	○エレベーターのない地下鉄駅の出入り口がある。遠回りする必要がある、とても不便。 ○子育て中の母親にとって、「あい・ぽーと」のような地域で日常的に交流できる場所があることはとても大切。 ○集まれる空間だけがあっても、なかなか利用しない。空間に加えて日常的に開催されているイベントがあると、親同士のコミュニケーションが取れ、子育てに良い。
	<高齢者、障害者> 港区バリアフリー基本構想推進協議会（地区別） 協議会でいただいたご意見から、関連する内容を抽出 [芝地区] 平成 28 年 5 月 16 日	○バリアフリータウンマップは、場所の情報だけでなく経路による表示をしてほしい。 ○音声道案内を充実してほしい。 ○高齢者は、歩道橋を使えない。あまり使用されておらず、外観もよくない。歩道橋は撤去するもしくはエレベーターをつけてほしい。

	[麻布地区] 平成 28 年 5 月 19 日 [赤坂地区] 平成 28 年 5 月 17 日 [高輪地区] 平成 28 年 5 月 25 日 [芝浦港南地区] 平成 28 年 5 月 20 日	
	<生活安全、防犯> 生活安全活動推進協議会（地区別） アンケート形式にて実施 平成 28 年 8 月	○子どもが安心して遊べる環境の整備を。 ○自転車の歩道走行など、マナーが悪い。 ○監視社会は良いと思わないが、防犯カメラの設置も必要だと思う。 ○治安が良いことが第一である。
	<商店街、産業> 港区商店街連合会会員 港区産業団体連合会会員 アンケート形式にて実施 平成 28 年 7～8 月	○震災等の災害が起こった場合のライフライン、特に生活に必要な上下水、電気の供給確保の為に関係団体企業との連携が必要。 ○港区産業団体連合会を中心とした中小企業、特にものづくりをテーマに地域コミュニティで連携を図る。 ○今後一層、ものづくり観光をテーマにして地域のコミュニケーションを深めてほしい。 ○地元ものづくり中小企業を育て、観光・文化・国際化などに組み入れる。
【方針3】 道路・交通	日本シェアサイクル協会 ヒアリング形式にて実施 平成 28 年 8 月	○交通の分野はこれから、防災や景観など他分野との関連をさらに強く意識して計画していかなければいけない。道路・交通の「量」が求められる時代ではない。 ○自転車に限らず、公共交通を連絡する、結節することが大切。それぞれの交通モードを個々に考える時代は終わった。
【方針4】 緑・水	生物多様性みなとネットワーク 会員企業 アンケート形式にて実施 平成 28 年 10 月	○マスタープランは、目指す都市の具体的な姿がイメージできるような計画とすると良い。 ○国際貢献という視点が不可欠であり、グローバルな視点をもつ人材育成、国際紛争や地球規模の問題を議論するプラットフォームづくりが必要。 ○港区は緑を体感できる空間は多いが、水を体感できる空間は少ない。古川や運河の親水空間の充実に加えて、水上利用のアクティビティを充実してはどうか。 ○生物多様性保全の観点から、街路樹などを日本古来・地域古来の植物に変えていってはどうか。
【方針5】 防災・復興	港区防災会議に参画している地域防災協議会 アンケート形式にて実施 平成 28 年 8 月	○災害時における大手企業との連携は整いつつあるが、中小企業などとの連携がまだできていない面がある。帰宅させず自社に留めさせることや、災害備蓄品の常備など、指導・啓発を推進してほしい。 ○子どもの頃から自分自身の命を守るため、コミュニティ（和）をつくることが重要であることを学校教育の中でもっと教える。現在の小学生が 20 年後にまちで活動することを望む。 ○災害後の都市機能を早急に回復させるには、地域防災拠点での具体的な取組を明確にし、地域防災協議会（ネットワーク）などと連携し、日常的に訓練などを通じて取り組むこと、協議会（ネットワーク）との連絡会を開き、情報を共有していくこと。
【方針6】 景観	港区景観を考える会 ヒアリング形式にて実施 平成 28 年 7 月 5 日	○建物資源だけでなく、石垣、石造物、街路などのまちに残る古い記憶を伝えていくような景観づくりをしてほしい。 ○資源単体だけではなく、その周辺も含めて考えていくべ

		き。 ○ヒューマンスケールを大切にする施策を。 ○将来の緑を担う樹木の植栽、育成の施策の視点が無い。民間事業者と意見交換するなど、方向性を打ち出してもいいのではないかな。 ○人が使える緑、自然からみて良い緑など、質の高い緑をつくっていく。そのための管理者・事業者などの緑への理解も必要である。 ○街路樹の整備で、樹種が統一されていない箇所があり問題である。また、街路樹はメンテナンスも重要である。 ○古川も運河と同じように捉えるべきである。運河と同じように、古川にも顔を向けたようなまちづくりをする。
【方針7】 低炭素化	みなと環境にやさしい事業者会議 会員企業 アンケート形式にて実施 平成 28 年 6～8 月	○「緑と水の拠点の充実」に記載の大規模建築物等において、敷地を立体的に活用した緑化の推進について賛同。緑化にあたっては、量のみで評価するのではなく、代わりに質の充実で評価するような取組みを期待したい。 ○港区は人口の増加も見込まれているとともに、大規模開発が進むと考えられるため、低炭素、省エネルギーに寄与するエネルギーシステムが最も重要である。また、自立分散型電源は停電時にも電力を供給できるシステムもあるため、防災の観点からも都市機能の継続のためにも貢献できる。 ○様々なエネルギーのベストミックスや ICT を活用したスマートエネルギーネットワークの「田町スマエネパーク」のようなモデルの導入が促進されれば、さらに環境負荷の低減に繋がるのではないかな。
【方針8】 国際化・観光・文化	<観光> 港区観光協会 会員企業 ヒアリング形式にて実施 平成 28 年 6 月 2 日	○観光バスの駐車場が不足している。駐車場がないと観光ツアーのルートに組み込めない。東京タワーは、バスの駐車場がたくさんあるからコースに組み込みやすい。 ○港区はテレビ局が集積しているので、イベントがメディアに載りやすい恵まれた立地。これをいかしてもっとプロモーションを仕掛けた方がよい。 ○地方都市は、行政・民間が一体でツアーのコースの企画をする。それくらい行政も観光に力を入れており、民間ができる企画の幅も広がるため、強い。 ○世界的に見て、夜の観光が東京は弱い。こんなにも安全な都市なのに、夜の時間を食事だけで終わらせてホテルに帰るのはもったいない。
	<文化> 港区スポーツふれあい文化健康財団 ヒアリング形式にて実施 平成 28 年 7 月 19 日（火）	○施設を拠点とした地域のコミュニティづくりがこれからは必要。 ○生涯学習は、生きていくためになくはないけど大切。 ○港区で今度マラソン大会を行う予定。各地区にランニングコースを設置し、日常的にマラソンに親しみ、スポーツが根付く環境づくりを併せて行いたい。ランニングを根付かせるためには、着替える場所やトイレが街なかのいろんなところにあると良い。 ○お台場ベイクリーンアップは、1000 人を超える人が参加している。地域への愛着を深めることに繋がっている。
今後のまちづくりの進め方	<U35-在勤者> みなとネット 会員企業 ヒアリング形式にて実施	○舟運は、交通と観光の両方の側面がある。どちらにしても、既存の公共交通である駅と船着き場、ホテルの回遊性が重要。 ○自転車シェアリングはとても可能性がある。三輪車など、

等	平成 28 年 7 月 25 日（月）	子ども連れや高齢者がもっと使いやすくなれば。 ○公園をもっと開放できないか。例えば自然教育園で音楽のイベントをやったり、芝公園でキャンプをやったり。最近では、アウトドアオフィス、外での会議も流行っている。 ○既存の公共の公園の使い方を広げるのはハードルが高いので、開発事業にあわせて作った広場などで行うのはどうか。まちの更新のタイミングで、まちの空間の使い方を考え直す。 ○観光は、地方都市へ行く人が増えているように感じる。品川駅前のホテルの稼働率も若干落ちてきている。移動が便利になるほど、東京に観光で来る人は減っていくのでは。東京の発信力を強化することが重要。 ○港区は、区も豊かであるし力のある民間企業も多く、先駆的なモデルを展開しやすい自治体であると思う。もっと企業が地域で活躍できるように、何か仕掛けがあると良い。モデルケースを拡大していく。 ○企業人が勤務地に対して地元意識を持つような仕組みを考えたい。イベントだけでなく、草の根的に普段からの関わりを広げていくような仕組みのプラットフォームを、行政が担ってもらえないか。
	<区内大学生> 東海大学、東京海洋大学、明治学院大学の学生 ヒアリング形式にて実施 平成 28 年 8 月 4 日（木）	○運河にいろんな生物がいることを知って、水辺に行くきっかけを増やしたり、水質を守ろうと考えたり。そういった教育が水辺のにぎわいにつながる。 ○身体と環境に近い移動手段であればあるほど、まちに愛着がわくのではないかな。例えば、車より自転車、自転車より歩く。 ○平日は都心で働いて、仕事の後まちでショッピング、休日は運河でつり・・・みたいな生活が港区なら可能なのでは。 ○砂浜でイベントをやりたい！音楽などのフェス。ふらっと行ったらいつも何かやっている、という感じが良い。 ○若い世代が集まってイベントなどをやることを区も応援・PRしてくれると、仕掛ける人はいると思う。もっと様々な若い人と出会い、何かやりたい。